

ロボット・テクノロジー 関連株ファンド -ロボテック- (為替ヘッジあり)

運用報告書 (全体版) 第18期

(決算日 2025年9月16日)
(作成対象期間 2025年3月14日～2025年9月16日)

受益者のみなさまへ

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式		
信託期間	2016年9月30日～2050年9月13日		
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用) の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券	
	ダイワ・マネーストック・マザーファンド	円建ての債券	
組入制限	当ファンドの投資信託証券 組入上限比率	無制限	
	マザーファンドの 株式組入上限比率	純資産総額の 10%以下	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。		

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先 (コールセンター)
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指數 (税引後配当込み、米ドルベース) (参考指数)	期中騰落率	公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率					
14期末(2023年9月13日)	円 12,633	円 100	% 3.3	18,445	% 11.4	% —	% 97.4	百万円 9,368
15期末(2024年3月13日)	13,843	1,000	17.5	21,193	14.9	—	99.1	9,209
16期末(2024年9月13日)	12,858	200	△ 5.7	22,657	6.9	0.0	97.1	8,220
17期末(2025年3月13日)	12,312	0	△ 4.2	23,041	1.7	0.0	99.4	7,350
18期末(2025年9月16日)	13,595	400	13.7	27,323	18.6	0.0	99.1	7,679

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World 指数（税引後配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc.（「MSCI」）の承諾を得て、同指数の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World 指数（税引後配当込み、米ドルベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドに基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。 (<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

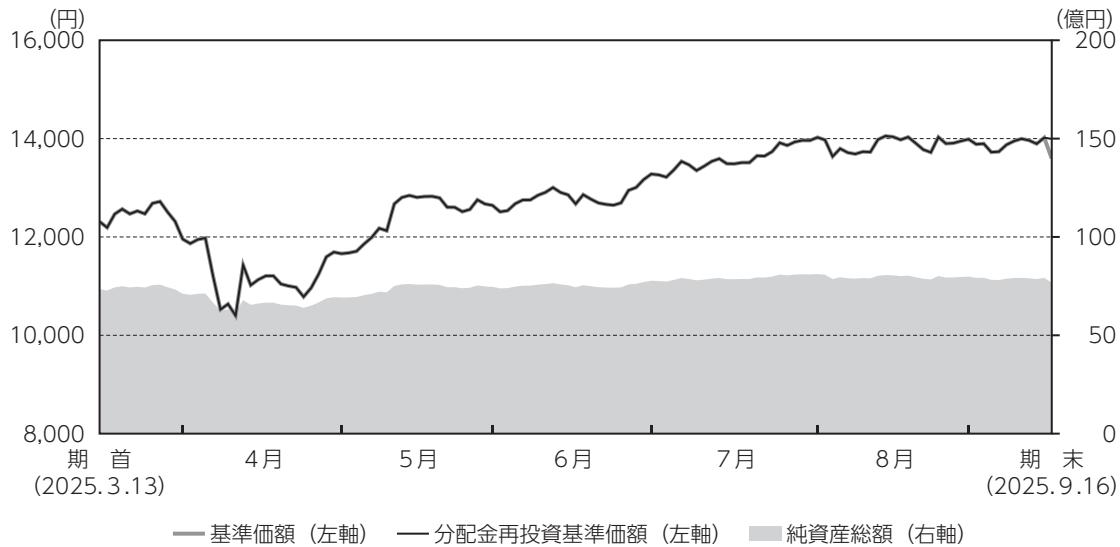
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期 首：12,312円

期 末：13,595円（分配金400円）

騰落率：13.7%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

当成期の基準価額は、グローバル株式市況の上昇がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド 一口ボテックー (為替ヘッジあり)

年 月 日	基 準 価 額	M S C I A C W o r l d 指 数 (税引後配当込み、米ドルベース)		公 組 入 比	社 債 率	投 受 組	資 益 入	信 証 入	託 券 率
		騰 落 率 (参考指數)	騰 落 率						
(期首) 2025年3月13日	円 12,312	% −	% 23,041	−	0.0	%	0.0	% 99.4	
3月末	11,956	△ 2.9	△ 23,045	0.0	0.0			99.3	
4月末	11,660	△ 5.3	23,120	0.3	0.0			99.1	
5月末	12,642	2.7	24,538	6.5	0.0			99.2	
6月末	13,279	7.9	25,530	10.8	0.0			99.1	
7月末	14,025	13.9	26,096	13.3	0.0			99.3	
8月末	13,988	13.6	26,740	16.0	0.0			99.0	
(期末) 2025年9月16日	13,995	13.7	27,323	18.6	0.0			99.1	

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2025.3.14～2025.9.16)

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市況は、当成期首から2025年4月上旬にかけて、米国政府が、一律10%の基本関税に加えて大方の市場参加者が予想していたよりも大幅に高い相互関税を発表したことで、下落しました。6月末にかけては、米国政府が関税に対する強硬な姿勢を和らげ主要国と貿易協議を進展させたこと、また消費者信頼感指数や企業景況感指数などの景気先行指標の改善が好感され、株価は反発しました。当成期末にかけては、米国政府が複数の国と貿易合意に至ったことや、好調な企業業績および利下げ期待が相場の支援材料となるなど、投資環境の改善から、株価は騰勢を強める展開となりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)」の組入比率を、通常の状態で高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)：アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)

■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2025.3.14～2025.9.16)

■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)」と「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)」を高位に組み入れました。

■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやプロセプト・バイオロボティクスなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別では、ロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国や日本を中心に投資しました。

個別銘柄については、電気自動車市場での進展が期待できることから、中国のエレクトロニクスメーカー小米集団 (シャオミ) を新規に組み入れました。一方、アルファベットの組み入れを削減し、AI (人工知能) 投資やエージェントAIの開発が軌道に乗っているメタ・プラットフォームの組み入れを増やしました。セールスフォースについては全売却し、エージェントAI製品の導入が進むサービスナウの組み入れを増やしました。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

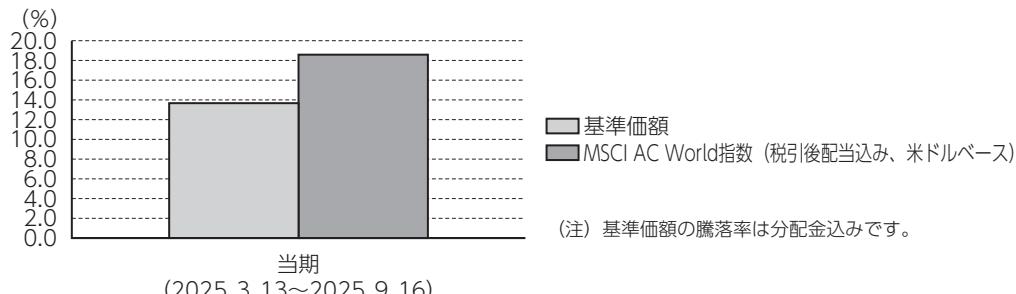
■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指標との騰落率の対比です。



分配金について

当成期の1万口当たり分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当たり）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当たり）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期	
	2025年3月14日 ～2025年9月16日	
当期分配金（税込み）（円）	400	
対基準価額比率（%）	2.86	
当期の収益（円）	0	
当期の収益以外（円）	399	
翌期繰越分配対象額（円）	4,153	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの收益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはございません。

■収益分配金の計算過程（1万口当たり）

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 0.36円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00
(c) 収益調整金	3,498.18
(d) 分配準備積立金	✓ 1,054.82
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	4,553.37
(f) 分配金	400.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	4,153.37

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)」の組入比率を、通常の状態で高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり)

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

メガテック企業は引き続きAI（人工知能）インフラ整備に巨額の投資を行っており、設備投資額は高水準を維持しています。この巨額の投資は2026年も続くことが予想されます。米国の「1つの大きく美しい法案（O B B B法）」の成立によって、インフラ整備や研究開発投資の即時減価償却が可能となることから、巨額の投資をする企業にとって税制上のメリットがもたらされることが期待されます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項目	当期 (2025.3.14~2025.9.16)		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	82円	0.634%	信託報酬=当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は12,861円です。
(投信会社)	(25)	(0.197)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販売会社)	(54)	(0.423)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	－	－	売買委託手数料=当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	－	－	有価証券取引税=当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.004	その他費用=当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	82	0.638	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

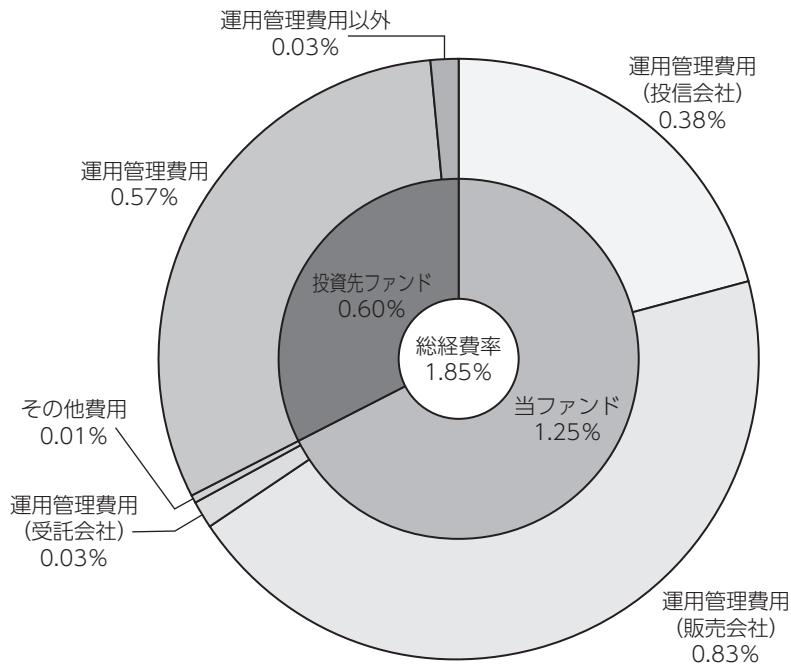
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.85%です。



総経費率 (①+②+③)	1.85%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2025年3月14日から2025年9月16日まで)

国内	アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
		千口 -	千円 -	千口 310,894.461	千円 726,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

(1) 当ファンドにおける当成期中の利害関係人との取引状況

当成期中ににおける利害関係人との取引はありません。

(2) ダイワ・マネーストック・マザーファンドにおける

当成期中の利害関係人との取引状況

(2025年3月14日から2025年9月16日まで)

決算期	当期					
	区分	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	
公社債	百万円	百万円 261,152	うち利害 関係人との 取引状況B 36,445	% 14.0	百万円 32,086	百万円 -
コール・ローン	9,279,360	-	-	-	-	-

(注) 平均保有割合0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 当成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当成期中ににおける売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当成期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券株式会社です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当期末			
	口数	評価額	比率	
国内投資信託受益証券 アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	千口 3,120,286.385	千円 7,611,002	% 99.1	

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	期首 口数	当期末	
		口数	評価額
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	千口 1	千口 1	千円 1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2025年9月16日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 7,611,002	% 95.6
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	354,414	4.4
投資信託財産総額	7,965,419	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年9月16日現在

項目	当期末
(A) 資産	7,965,419,302円
コール・ローン等	354,414,898
投資信託受益証券(評価額)	7,611,002,550
ダイワ・マネーストック・マザーファンド(評価額)	1,854
(B) 負債	285,872,866
未払収益分配金	225,952,420
未払解約金	11,969,802
未払信託報酬	47,633,179
その他未払費用	317,465
(C) 純資産総額(A - B)	7,679,546,436
元本	5,648,810,502
次期繰越損益金	2,030,735,934
(D) 受益権総口数	5,648,810,502口
1万口当り基準価額(C / D)	13,595円

*期首における元本額は5,969,867,619円、当成期間中ににおける追加設定元本額は55,004,780円、同解約元本額は376,061,897円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は13,595円です。

■損益の状況

当期 自2025年3月14日 至2025年9月16日

項目	当期
(A) 配当等収益	216,280円
受取利息	216,280
(B) 有価証券売買損益	997,403,016
売買益	1,038,446,533
売買損	△ 41,043,517
(C) 信託報酬等	△ 47,950,644
(D) 当期損益金(A+B+C)	949,668,652
(E) 前期繰越損益金	△ 669,041,002
(F) 追加信託差損益金	1,976,060,704
(配当等相当額)	(1,443,182,746)
(売買損益相当額)	(532,877,958)
(G) 合計(D+E+F)	2,256,688,354
(H) 収益分配金	△ 225,952,420
次期繰越損益金(G+H)	2,030,735,934
追加信託差損益金	1,976,060,704
(配当等相当額)	(1,443,182,746)
(売買損益相当額)	(532,877,958)
分配準備積立金	370,104,801
繰越損益金	△ 315,429,571

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	206,690円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	1,976,060,704
(d) 分配準備積立金	595,850,531
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	2,572,117,925
(f) 分配金	225,952,420
(g) 翌期繰越分配対象額(e-f)	2,346,165,505
(h) 受益権総口数	5,648,810,502□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ

1万口当たり分配金(税込み)	400円
----------------	------

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- 分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- 分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- 元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■運用報告書にかかる信託約款の条文変更について

2025年4月1日付の投資信託及び投資法人に関する法律の改正により、運用報告書にかかる規定が変更されたため、運用報告書にかかる信託約款の条文を以下のとおり変更しました。（下線部を変更）

＜変更前＞

（運用報告書に記載すべき事項の提供）

- ①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供します。
- ②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付します。

＜変更後＞

（運用状況にかかる情報の提供）

- ①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める事項にかかる情報を電磁的方法により提供します。
- ②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から前項に定める情報の提供について、書面の交付の方法による提供の請求があった場合には、当該方法により行なうものとします。

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

<補足情報>

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド ～ロボテック～（為替ヘッジあり））が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2024年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2025年9月16日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄

公社債

(2025年3月14日から2025年9月16日まで)

買付		売付			
銘柄	金額	銘柄	金額		
1324国庫短期証券	42,456,310	千円	1231国庫短期証券	32,086,550	千円
2025/11/10			2025/5/20		
1305国庫短期証券	42,359,507				
2025/8/12					
1296国庫短期証券	35,369,131				
2025/6/30					
1322国庫短期証券	27,971,020				
2025/11/4					
1303国庫短期証券	26,054,513				
2025/8/4					
1325国庫短期証券	24,972,600				
2025/11/17					
1318国庫短期証券	22,480,525				
2025/10/14					
1306国庫短期証券	20,581,727				
2025/8/18					
1315国庫短期証券	18,906,718				
2025/9/29					

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

下記は、2025年9月16日現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンド（229,183,441千口）の内容です。

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

2025年9月16日現在							
区分	額面金額	評価額	組入比率	うちB級以下組入比率	残存期間別	組入比率	
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	136,927,000	136,857,172	59.5	—	—%	—%	59.5%

(注1) 組入比率は、組入資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2025年9月16日現在						
区分	銘柄	年利	率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	1315国庫短期証券		%	千円	千円	
	1318国庫短期証券		—	18,927,000	18,924,102	2025/09/29
	1322国庫短期証券		—	22,500,000	22,493,872	2025/10/14
	1324国庫短期証券		—	28,000,000	27,984,565	2025/11/04
	1325国庫短期証券		—	42,500,000	42,473,300	2025/11/10
合計	銘柄数	5銘柄		136,927,000	136,857,172	2025/11/17
合計	銘柄額					

(注) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

運用報告書 第15期（決算日 2024年12月9日）

（作成対象期間 2023年12月12日～2024年12月9日）

ダイワ・マネーストック・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

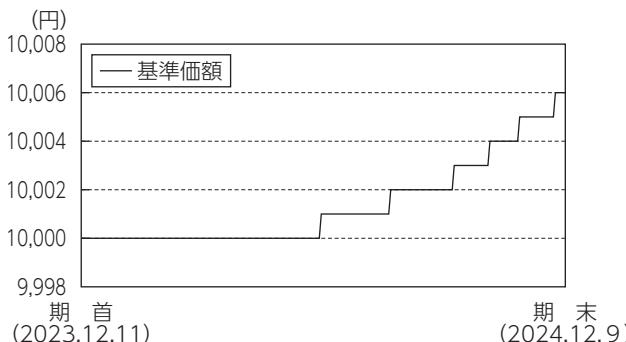
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 組 入 比	債 率
	円	%		
(期首)2023年12月11日	10,000	—	—	—
12月末	10,000	0.0	—	—
2024年 1月末	10,000	0.0	—	—
2月末	10,000	0.0	—	—
3月末	10,000	0.0	55.3	—
4月末	10,000	0.0	82.1	—
5月末	10,000	0.0	68.9	—
6月末	10,001	0.0	55.2	—
7月末	10,002	0.0	69.8	—
8月末	10,002	0.0	84.0	—
9月末	10,003	0.0	58.2	—
10月末	10,004	0.0	56.5	—
11月末	10,005	0.1	56.7	—
(期末)2024年12月9日	10,006	0.1	56.2	—

(注1) 謄落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・謄落率】

期首：10,000円 期末：10,006円 謄落率：0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期の国債およびコール・ローン等の利回りが低位で推移したことなどから、基準価額はおおむね横ばいとなりました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当成期首より2024年2月までは、日銀のマイナス金利政策を背景に、国庫短期証券（3ヶ月物）の利回りはおおむねマイナス圏で推移しました。その後、3月に日銀はマイナス金利政策を解除しましたが、緩和的な金融環境が継続する中、国庫短期証券（3ヶ月

物）の利回りは低位で推移しました。

◆前成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指標を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	—
合 計	—

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入しております。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2023年12月12日から2024年12月9日まで)

国 内	買 付 額	賣 付 額	千円
			千円
国債証券	346,632,363	—	(212,000,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2023年12月12日から2024年12月9日まで)

当 期			
買 付	賣 付		
銘柄	金額	銘柄	金額
1219国庫短期証券	千円	2024/6/24	129,997,160
1239国庫短期証券	69,999,650	2024/9/24	
1258国庫短期証券	53,294,723	2024/12/23	
1266国庫短期証券	41,398,758	2025/2/10	
1231国庫短期証券	39,942,240	2025/5/20	
1232国庫短期証券	11,999,832	2024/8/19	

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内(邦貨建)公社債(種類別)

作成期	当	期	末				
区分	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下	残存期間別組入比率		
国債証券	千円 134,700,000	千円 134,670,523	% 56.2	% —	% —	% —	% 56.2

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内(邦貨建)公社債(銘柄別)

区分	銘柄	年利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	1258国庫短期証券	% —	千円 53,300,000	千円 53,299,179	2024/12/23
	1266国庫短期証券	% —	千円 41,400,000	千円 41,399,193	2025/02/10
	1231国庫短期証券	% —	千円 40,000,000	千円 39,972,151	2025/05/20
合計	銘柄数 金額	3銘柄 134,700,000		134,670,523	

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年12月9日現在

項目	当	期	末
	評価額	比	率
公社債	千円 134,670,523		% 56.2
コール・ローン等、その他	104,892,215		43.8
投資信託財産総額	239,562,739		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年12月9日現在

項目	当	期	末
(A) 資産	239,562,739,179円		
コール・ローン等	104,892,215,443		
公社債(評価額)	134,670,523,736		
(B) 負債			—
(C) 純資産総額(A-B)	239,562,739,179		
元本	239,423,796,545		
次期繰越損益金	138,942,634		
(D) 受益権総口数	239,423,796,545口		
1万口当り基準価額(C/D)	10,006円		

*期首における元本額は223,366,515,143円、当作成期間中における追加設定元本額は379,388,372,711円、同解約元本額は363,331,091,309円です。

*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額:

ロボット・テクノロジー関連株ファンド	1,268円
ダイワ/ミレーアセット・インド株式ファンド	1,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジあり)	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジなし)	998円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボットック(為替ヘッジあり)	1,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型)	1,985円
-ロボットック(年1回)(為替ヘッジあり)	1,985円
i Free eレバレッジ S&P500	12,280,562,264円
i Free eレバレッジ NASDAQ100	161,414,548,329円
クリーンテック株式ファンド(資産成長型)	1,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック(毎月決算/予想分配金提示型)	999円
世界インフラ戦略ファンド(為替ヘッジなし/資産成長型)	1,501円
i Free e ETF 日経平均レバレッジ・インデックス	4,967,255,494円
i Free e ETF 日経平均ダブルインバース・インデックス	3,734,014,700円
i Free e ETF TOPIXレバレッジ(2倍)指数	1,515,998,588円
i Free e ETF TOPIXダブルインバース(-2倍)指数	801,214,702円
i Free e ETF 日経平均インバース・インデックス	5,058,763,299円
i Free e ETF TOPIXインバース(-1倍)指数	10,715,235,502円
i Free e ETF JPX日経400ダブルインバース・インデックス	64,927,071円
i Free e ETF S&P500レバレッジ	876,757,771円
i Free e ETF S&P500インバース	2,731,982,925円
ダイワ日本債15-20年ラーメンファンド -マネーポートフォリオ -SLトレード-	5,039,566円
ブルーベン・マネー・ポートフォリオ6	19,181,134,074円
ブル3倍日本株ポートフォリオ6	14,137,732,019円
ベア2倍日本株ポートフォリオ6	1,917,701,692円
ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	20,903,964円
ダイワ国バングローン・オープン(為替ヘッジあり)	997円
ダイワ米国バングローン・オープン(為替ヘッジなし)	997円
ダイワ/ミレーアセット・アセント	1,148円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)	1,833円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)	1,788円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)	1,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型)	1,588円
-ロボットック(年1回)(為替ヘッジあり)	1,813円

*当期末の計算口数当りの純資産額は10,006円です。

■損益の状況

当期 自2023年12月12日 至2024年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	101,466,211円
受取利息	108,064,601
支払利息	△ 6,598,390
(B) 有価証券売買損益	118
売買益	118
(C) 当期損益金(A + B)	101,466,329
(D) 前期繰越損益金	2,910,485
(E) 解約差損益金	△ 35,737,142
(F) 追加信託差損益金	70,302,962
(G) 合計(C + D + E + F)	138,942,634
次期繰越損益金(G)	138,942,634

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2050年9月12日まで	
運用方針	アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（D R（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。 マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。 ※一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
マザーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーモードが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびエンターテイメント向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ul style="list-style-type: none"> 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業に着目し、高度な技術力・強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	每決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。 ②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

アクサ I M・グローバル・
ロボット関連株式ファンド
(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

運用報告書（全体版）

第18期（決算日 2025年8月13日）

受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあざかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」は、このたび第18期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階

<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》

電話番号：03-5447-3160

受付時間：9:00～17:00(土日祭日を除く)

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			株式組入比率	純資産額
		税分	込配	み金		
14期(2023年8月14日)	円 20,003	円 0	1.8	%	98.9	百万円 12,365
15期(2024年2月13日)	22,079	0	10.4	%	98.3	12,416
16期(2024年8月13日)	21,688	0	△ 1.8	%	93.8	10,567
17期(2025年2月13日)	23,552	0	8.6	%	97.7	10,533
18期(2025年8月13日)	24,332	0	3.3	%	97.8	10,282

(注1) 基準価額および分配金は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

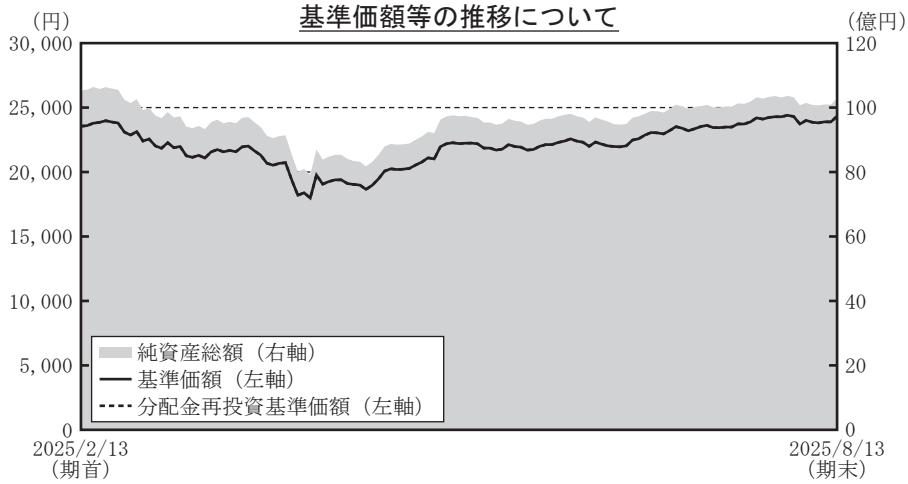
年月日	基準価額	騰落率		株式組入比率
		騰	落	
(期首) 2025年2月13日	円 23,552	% —	% 97.7	
2月末	22,403	△ 4.9	% 94.7	
3月末	20,685	△12.2	% 95.9	
4月末	20,193	△14.3	% 97.2	
5月末	21,929	△ 6.9	% 97.6	
6月末	23,065	△ 2.1	% 97.3	
7月末	24,398	3.6	% 98.9	
(期末) 2025年8月13日	24,332	3.3	% 97.8	

(注1) 基準価額は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2025年2月14日～2025年8月13日）



期 首：23,552円
 期 末：24,332円（既払分配金（税込み）：0円）
 謙 落 率： 3.3%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国や日本などの保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初より米国的主要貿易相手国に対する関税の脅威が続く中、市場は下落しました。特にトランプ政権が一律10%の基本関税に加え大方の市場参加者が予想していたよりも大幅に高い相互関税を発表した4月の前半は大幅な下落となりました。同月の後半にかけては、トランプ政権は関税に対する市場の動搖や企業側からの懸念に応える形で、相互関税の発動を90日間延期し、貿易相手国との交渉に応じ、関税引き下げの可能性を示唆したことから、市場は幾分落ち着きを取り戻しました。5月に入ると、市場は大きく反発しました。トランプ政権は関税に対する強硬な姿勢を和らげ、英国とは貿易協定で合意、欧州連合（EU）とは交渉期間の延長、中国とは関税率の大幅引き下げなど注目すべき進展がありました。6月も消費者信頼感や企業景況感など先行指標が上向き始めたことから、市場はこれを好感して引き続き堅調に推移しました。7月以降も企業決算シーズンが好調なスタートを切ったことに加え、米政権が幾つかの貿易相手国との間で貿易交渉が合意に至ったことが市場に安心感をもたらし株価は上昇しました。関税に関するニュースは引き続き市場のセンチメントに影響を与える可能性はあるものの、企業や投資家にとってはより安定した環境が形成されつつあります。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやプロセプト・バイオロボティクスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、電気自動車市場での進展が期待できることから、中国のエレクトロニクスメーカー小米集団（シャオミ）を新規に組入れました。一方、アルファベットの組入れを削減し、AI投資やエージェントAIの開発がうまく軌道に乗っているメタ・プラットフォームの組入れを増やしました。セールスフォースについては全売却し、エージェントAI製品の導入が進むサービスナウの組入れを増やしました。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送させていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

第18期	
2025年2月14日～2025年8月13日	
当期分配金	—
(対基準価額比率)	-%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	14,332

(注1) 「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの收益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

株式市場は、2025年前半に米国の関税発表を巡る懸念から大きく変動した後、安定を取り戻しています。関税が当初恐れていたよりも比較的低い水準に落ち着き、中国との交渉は延長が伝えられる中、投資家のセンチメントは改善を続けています。2025年4-6ヶ月期の決算シーズンでは、企業業績の底堅さが安心感を与え、貿易環境の安定化により企業もより明確な形で投資計画を立てることが可能となっています。米国政府にとって関税は、世界の多くの国との不公平な貿易慣行に対処するための重要な手段と見なされており、外国からの輸入品の価格を高くすることによって、米国の製造業復活やリショアリングを支援し、国内雇用を創出する鍵を握ると考えられています。最終的に、トランプ政権の産業政策が成功すれば、米国への大規模な投資を促進するはずであり、ロボテック戦略はその恩恵を受けると見込まれます。また、トランプ政権の規制緩和推進や建設プロジェクト認可プロセスの迅速化も投資活動の活発化につながると見られます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■1万口当たりの費用明細（2025年2月14日～2025年8月13日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	63円	0.286%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は22,025円です。
(投信会社)	(60)	(0.273)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(1)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	2	0.007	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(2)	(0.007)	
その他費用	3	0.014	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(2)	(0.008)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	68	0.308	

（注1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2025年2月14日～2025年8月13日）

(1) 為替先渡取引

種類	当期		
	取引契約	金額	百万円
直物 為替先渡取引			53

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千口 172,527	千円 470,000	千口 273,024	千円 840,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2025年2月14日～2025年8月13日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期	
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	59,186,584千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額		257,282,399千円
(c) 売買高比率(a)／(b)		0.23

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2025年2月14日～2025年8月13日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2025年2月14日～2025年8月13日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2025年8月13日現在）

親投資信託残高

種類	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千口 3,218,376	千口 3,117,879	千円 10,334,833

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2025年8月13日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千円 10,334,833	% 99.2
コール・ローン等、その他	86,434	0.8
投資信託財産総額	10,421,268	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産（7,112千円）の投資信託財産総額（10,421,268千円）に対する比率は、0.1%です。

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（243,500,222千円）の投資信託財産総額（289,488,388千円）に対する比率は、84.1%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=147.84円、1香港ドル=18.83円、1台湾ドル=4.926円、1ノルウェークローネ=14.46円、1ユーロ=172.66円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2025年8月13日現在)

項目	当期末
(A) 資産	18,947,387,886円
コール・ローン等	79,195,694
アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	10,334,833,822
未収入金	8,533,358,370
(B) 負債	8,664,503,899
未払金	8,636,389,974
未払信託報酬	27,475,053
その他未払費用	638,872
(C) 純資産総額(A-B)	10,282,883,987
元本	4,225,993,072
次期繰越損益金	6,056,890,915
(D) 受益権総口数	4,225,993,072口
1万口当たり基準価額(C/D)	24,332円
1. 期首元本額	4,472,424,163円
期中追加設定元本額	－円
期中一部解約元本額	246,431,091円
2. 1口当たり純資産額	2,4332円

■損益の状況

当期（自 2025年2月14日 至 2025年8月13日）

項目	当期
(A) 配当等収益 受取利息	150,960円 150,960
(B) 有価証券売買損益 売買益 売買損	375,441,088 992,039,787 △ 616,598,699
(C) 先物取引等損益 取引益 取引損	△ 17,522,565 19,292,900 △ 36,815,465
(D) 信託報酬等	△ 28,216,297
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	329,853,186
(F) 前期繰越損益金	3,796,222,647
(G) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	1,930,815,082 (1,834,605,229) (96,209,853)
(H) 計 (E+F+G) 次期繰越損益金(H)	6,056,890,915 6,056,890,915
追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	1,930,815,082 (1,834,605,229) (96,209,853)
分配準備積立金	4,126,075,833

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(34,034,432円)、費用控除後の有価証券等損益額(92,347,432円)、信託約款に規定する収益調整金(1,930,815,082円)および分配準備積立金(3,999,693,969円)より分配対象収益は6,056,890,915円(10,000口当たり14,332.47円)ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（D R（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<p>1. 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。</p> <p>イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。</p> <p>ロ) 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</p> <p>ハ) 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</p> <p>3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p> <p>4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。</p> <p>5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
株式組入制限	無制限

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

運用報告書

第10期（決算日：2025年8月13日）

（計算期間 2024年8月14日～2025年8月13日）

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	株 式 率			純 資 産 額
		期 謄	中 落	率	
6期末(2021年8月13日)	円 22,368	% 37.1		% 97.9	百万円 299,321
7期末(2022年8月15日)	21,962	△ 1.8		95.5	281,351
8期末(2023年8月14日)	24,434	11.3		97.2	272,244
9期末(2024年8月13日)	28,196	15.4		98.4	269,017
10期末(2025年8月13日)	33,147	17.6		97.3	289,024

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

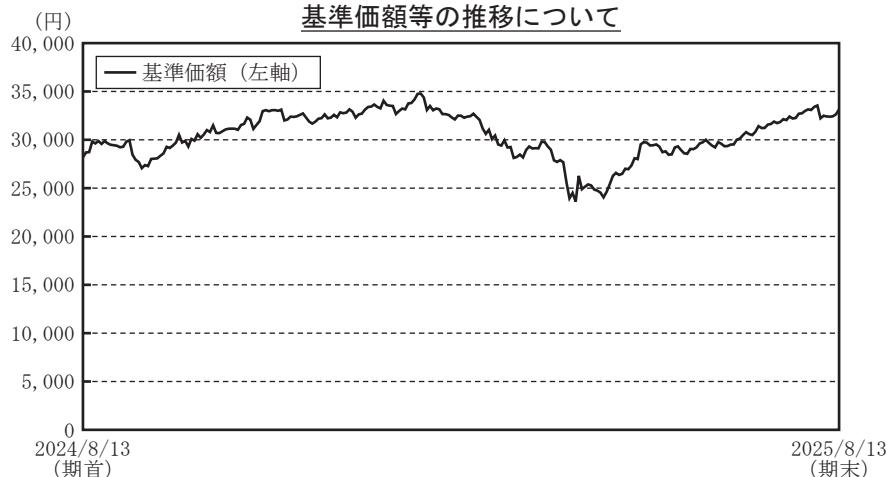
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	株 式 率		
		騰	落	率
(期 首) 2024年8月13日	円 28,196		%	% 98.4
8月末	29,287		3.9	98.1
9月末	29,719		5.4	97.5
10月末	32,085		13.8	98.3
11月末	31,677		12.3	98.5
12月末	33,397		18.4	97.9
2025年1月末	33,237		17.9	98.4
2月末	30,065		6.6	98.2
3月末	27,872	△	1.1	96.9
4月末	26,370	△	6.5	97.3
5月末	28,935		2.6	97.3
6月末	30,791		9.2	98.2
7月末	33,409		18.5	97.7
(期 末) 2025年8月13日	33,147		17.6	97.3

(注1) 基準価額は1万口当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況 (2024年8月14日～2025年8月13日)



【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国や日本などの保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初より日銀の積極的な利上げ姿勢を受けたキャリートレードの巻き戻しで日本市場が急落したのを皮切りに、欧米でもマクロ経済のシナリオがソフトランディングからハードランディングに変化するかもしれないとの見方から、下落基調が続いていました。しかしながら、月後半にかけて不安材料は概ね後退し、パウエル米連邦準備制度理事会（F R B）議長の9月利下げ開始を示唆する発言などを受けて株価は上昇に転じました。9月もF R Bによる0.5%の利下げに加えて、米国の4～6月期G D P成長率が上方修正され、景気と個人消費が一部で懸念されていたよりも良好な状態にあることが示唆されたことから、後半にかけて勢いよく反発しました。10月に入ると米国大統領選挙を前に投資家が守りに入り、F R Bによる大幅利下げの期待が堅調な経済指標により後退したため、株価は下落しました。11月に入るとトランプ大統領の返り咲きによって、税率の引き下げ、規制緩和および成長促進の政策が見込まれ、経済活動および企業収益を支援すると見られることから、市場から好意的に受け止められて上昇しました。12月に入ると再び下落基調になりましたが、2024年の株式市場は、時価総額の大きいテクノロジー株に大きく牽引された米国株を始めとして、堅調なリターンを示しました。2025年は米国を中心に時価総額の大きいテクノロジー株に大きく牽引され堅調なリターンを示した昨年の流れを引き継ぎ、幸先のいいスタートを切りましたが、2月に入ると米国的主要貿易相手国に対する関税の脅威が続く中、市場は下落しました。特にトランプ政権が一律10%の基本関税に加え大方の市場参加者が予想していたよりも大幅に高い相互関税を発表した4月の前半は大幅な下落となりました。同月の後半にかけては、トランプ政権は関税に対する市場の動搖や企業側からの懸念に応える形で、相互関税の発動を90日間延期し、貿易相手国との交渉に応じ、関税引き下げの可能性を示唆したことから、市場は幾分落ち着きを取り戻しました。5月に入ると、市場は大きく反発しました。トランプ政権は関税に対する強硬な姿勢を和らげ、英国とは貿易協定で合意、欧州連合（E U）とは交渉期間の延長、中国とは関税率の大幅引き下げなど注目すべき進展がありました。6月も消費者信頼感や企業景況感など先行指標が上向き始めたことから、市場はこれを好感して引き続き堅調に推移しました。7月以降も企業決算シーズンが好調なスタートを切ったことに加え、米政権が幾つかの貿易相手国との間で貿易交渉が合意に至ったことが市場に安心感をもたらし株価は上昇しました。関税に関するニュースは引き続き市場のセンチメントに影響を与える可能性はあるものの、企業や投資家にとってはより安定した環境が形成されつつあります。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の147円台前半から期末には147円台後半となり、ユーロ・円レートは期初の161円台から期末には172円台となりました。

当期は、米ドルは景気減速懸念を背景とした政策金利の引き下げ期待が高まったことから円高が進行しましたが、期を通じては円安となりました。ユーロは欧州独自の防衛力の強化およびウクライナ支援の拡大を目的として欧州委員会が財政拡大方針を示したことや、ドイツ政府が5,000億ユーロのインフラ・気候変動対策の特別基金を創設したことでユーロ圏景気の回復期待が高まり円安が進行しました。

【ポートフォリオについて】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやプロセプト・バイオロボティクスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、前半はアドバンスト・マイクロ・デバイセス (AMD) を全額売却しました。AMDは2024年にA Iチップ事業を成長させることに成功しましたが、エヌビディアやプロードコム（いずれも当ファンドの組入銘柄）などの競合他社と比較すると見劣りするものでした。また、幾つかの保有半導体銘柄で一部利益を確定させるため、アプライド・マテリアルズ（半導体製造装置）、TSMC（半導体受託製造）及びプロードコム（特定アプリケーション用A I半導体）を部分売却しました。一方で、GXOロジスティクスを買い増しました。同社は2024年10月、身売りを含む戦略的オプションを検討しているとの報道を受けて上昇していました。12月に、同社が身売りの検討を取りやめ、独立企業として継続することが明らかにされ、これに伴い株価は下落しました。GXOロジスティクスは外部委託倉庫の主要オペレーターとして、自動化の推進や顧客基盤からの効率性追求のニーズを受けて、今後も業界で有利な位置を占めていくと考えています。また、建設分野に特化した米国のソフトウェア企業であるプロコア・テクノロジーズを新規に組入れました。2021年の新規上場以来、当ファンドは同社の動向を注視していましたが、バリュエーションが魅力的になり、収益性が改善したことを受け投資を開始しました。後半は、電気自動車市場での進展が期待できることから、中国のエレクトロニクスメーカー小米集団（シャオミ）を新規に組入れました。一方、アルファベットの組入れを削減し、A I投資やエージェントA Iの開発がうまく軌道に乗っているメタ・プラットフォームの組入れを増やしました。セールスフォースについては全売却し、エージェントA I製品の導入が進むサービスナウの組入れを増やしました。

【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【今後の運用方針】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

株式市場は、2025年前半に米国の関税発表を巡る懸念から大きく変動した後、安定を取り戻しています。関税が当初恐れていたよりも比較的低い水準に落ち着き、中国との交渉は延長が伝えられる中、投資家のセンチメントは改善を続けています。2025年4-6月期の決算シーズンでは、企業業績の底堅さが安心感を与え、貿易環境の安定化により企業もより明確な形で投資計画を立てることが可能となっています。米国政府にとって関税は、世界の多くの国との不公平な貿易慣行に対処するための重要な手段と見なされており、外国からの輸入品の価格を高くすることによって、米国の製造業復活やリショアリングを支援し、国内雇用を創出する鍵を握る考えられています。最終的に、トランプ政権の産業政策が成功すれば、米国への大規模な投資を促進するはずであり、ロボティック戦略はその恩恵を受けると見込まれます。また、トランプ政権の規制緩和推進や建設プロジェクト認可プロセスの迅速化も投資活動の活発化につながると見られます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2024年8月14日～2025年8月13日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式)	5円 (5)	0.017% (0.017)	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 (その他)	5 (5)	0.015 (0.015)	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合計	10	0.033	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しております。期中の平均基準価額は30,465円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2024年8月14日～2025年8月13日)

株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	日本	千株 795	千円 4,163,346	千株 995	千円 4,818,638
外	アメリカ	百株 27,529 (262)	千米ドル 361,316 (△ 21,664)	百株 32,872	千米ドル 455,383
	香港	25,968	千香港ドル 146,320	296	千香港ドル 1,605
	台湾	700	千台湾ドル 65,865	9,220	千台湾ドル 885,434
	ノルウェー	22,417	千ノルウェークローネ 24,110	7,946	千ノルウェークローネ 6,877
国	ヨーロ		千ユーロ		千ユーロ
	オランダ	14	1,051	420	29,227
	フランス	233	5,531 (△ 300)	164	3,726
	ドイツ	2,061	8,226	5,496	29,005
	その他	— (△47,702)	— (△ 15,455)	—	—

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ()内は増資割当・株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2024年8月14日～2025年8月13日)

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	150,492,012千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	273,045,550千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	0.55

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2024年8月14日～2025年8月13日)

買付				売付			
銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
META PLATFORMS INC-CLASS A	千株 59	千円 6,178,322	円 103,302	INTUITIVE SURGICAL INC	千株 105	千円 7,945,186	円 75,411
SALESFORCE INC	104	4,971,845	47,645	ADVANCED MICRO DEVICES	411	7,693,741	18,699
ADVANCED MICRO DEVICES	213	4,779,809	22,423	ALTAIR ENGINEERING INC - A	451	7,025,365	15,548
EMERSON ELECTRIC COMPANY	234	4,553,700	19,459	NVIDIA CORP	298	6,522,953	21,823
SERVICENOW INC	30	4,518,581	146,583	ASPEN TECHNOLOGY INC	161	5,917,272	36,695
PROCEPT BIOROBOTICS CORP	496	4,344,338	8,748	ASML HOLDING NV	42	4,609,443	109,592
PROCORE TECHNOLOGIES INC	447	3,869,311	8,642	SALESFORCE INC	104	4,154,445	39,812
XIAOMI CORP-CLASS B	2,596	2,783,016	1,071	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING	922	4,145,313	4,496
MONOLITHIC POWER SYSTEMS INC	26	2,514,985	93,846	ALPHABET INC-CL C	156	4,121,969	26,374
AUTODESK INC	37	1,710,055	45,645	APPLIED MATERIALS INC	129	3,443,114	26,517

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等 (2024年8月14日～2025年8月13日)

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況 (2024年8月14日～2025年8月13日)

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細 (2025年8月13日現在)

(1) 国内株式

銘柄	前期末 株数	当期末	
		評価額	金額
機械 (34.1%)	千株	千株	千円
ナブテスコ	955	920	2,830,535
SMC	64	62	3,104,960
ダイワク	2,023	1,949	8,932,725
電気機器 (65.9%)			
三菱電機	2,283	2,199	8,148,777
安川電機	699	799	2,517,285
オムロン	400	—	—
キーエンス	164	168	9,544,446
ファナック	1,576	1,867	8,515,843
合計	株数・金額	8,166	7,966
	銘柄数(比率)	8	7 <15.1%>

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘 柄	前 期 末		当 期 末		業 種 等	
	株 数	株 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千米 ドル	千円		
NXP SEMICONDUCTORS NV	1,497	1,338	29,459	4,355,247	半導体・半導体製造装置	
KORNIT DIGITAL LTD	3,164	4,462	6,779	1,002,210	資本財	
ADVANCED MICRO DEVICES	3,939	1,956	34,230	5,060,669	半導体・半導体製造装置	
ALPHABET INC-CL C	3,508	2,072	42,309	6,255,097	メディア・娯楽	
AMAZON.COM INC.	4,817	4,091	90,606	13,395,327	一般消費財・サービス流通・小売	
ANSYS INC	1,028	—	—	—	ソフトウェア・サービス	
APPLIED MATERIALS INC	1,909	1,133	21,357	3,157,480	半導体・半導体製造装置	
AUTODESK INC	1,584	1,833	51,892	7,671,775	ソフトウェア・サービス	
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	6,082	6,981	36,563	5,405,474	ソフトウェア・サービス	
BROADCOM INC	2,438	1,849	57,858	8,553,805	半導体・半導体製造装置	
CAENCE DESIGN SYS INC	2,646	2,303	81,461	12,043,266	ソフトウェア・サービス	
COGNEX CORP	5,380	5,182	21,869	3,233,183	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
ALTAIR ENGINEERING INC - A	4,360	—	—	—	ソフトウェア・サービス	
DEXCOM INC	6,124	5,899	47,296	6,992,378	ヘルスケア機器・サービス	
EMERSON ELECTRIC COMPANY	—	2,259	30,038	4,440,944	資本財	
ASPEN TECHNOLOGY INC	1,556	—	—	—	ソフトウェア・サービス	
META PLATFORMS INC-CLASS A	—	584	46,190	6,828,804	メディア・娯楽	
GXO LOGISTICS INC	5,242	6,527	33,550	4,960,163	運輸	
GLOBUS MEDICAL INC-A	6,726	5,761	35,647	5,270,055	ヘルスケア機器・サービス	
IMPINJ INC	462	818	13,288	1,964,604	半導体・半導体製造装置	
INTUITIVE SURGICAL INC	2,207	1,223	58,487	8,646,850	ヘルスケア機器・サービス	
JBT MAREL CORP	—	1,698	23,910	3,534,952	資本財	
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	826	796	19,275	2,849,667	資本財	
MOBILEYE GLOBAL INC-A	3,290	—	—	—	自動車・自動車部品	
MONOLITHIC POWER SYSTEMS INC	—	259	21,836	3,228,368	半導体・半導体製造装置	
NOVANTA INC	2,266	2,182	26,452	3,910,666	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
NVIDIA CORP	11,295	8,707	159,488	23,578,819	半導体・半導体製造装置	
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	3,697	3,561	17,810	2,633,083	半導体・半導体製造装置	
PTC INC	1,246	1,542	31,542	4,663,232	ソフトウェア・サービス	
PROCORE TECHNOLOGIES INC	—	4,309	27,118	4,009,187	ソフトウェア・サービス	
PROCEPT BIOROBOTICS CORP	1,700	6,391	24,670	3,647,217	ヘルスケア機器・サービス	
QUALCOMM INC	1,582	1,226	18,858	2,788,089	半導体・半導体製造装置	
SERVICENOW INC	—	301	25,756	3,807,843	ソフトウェア・サービス	
SILICON LABORATORIES INC	1,056	1,017	13,313	1,968,331	半導体・半導体製造装置	
SYMBOTIC INC	2,382	1,545	7,992	1,181,610	資本財	
SYNOPSYS INC	—	336	21,068	3,114,812	ソフトウェア・サービス	
TERADYNE INC	3,173	2,895	32,319	4,778,107	半導体・半導体製造装置	
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	924	652	31,158	4,606,422	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
TRIMBLE INC	5,555	5,350	44,736	6,613,824	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	1,118	1,086	35,636	5,268,572	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
AMBARELLA INC	2,399	2,311	15,987	2,363,556	半導体・半導体製造装置	
小 計	株 銘 柄	株 数 ・ 数(比 率)	金 額 107,192 34	102,451 37	1,337,822 — 197,783,706 <68.4%>	

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

銘柄		前期末		当期末		業種等
		株数	株数	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(香港)	XIAOMI CORP-CLASS B	百株	百株	千香港ドル	千円	
		一	25,672	132,724	2,499,197	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	—	25,672	132,724	2,499,197	
		—	1	—	<0.9%>	
(台湾)	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING	21,760	13,240	千台湾ドル		
				1,562,320	7,696,300	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	21,760	13,240	1,562,320	7,696,300	
		1	1	—	<2.7%>	
(ノルウェー)	AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I	99,135	113,606	千ノルウェーコローネ		
				78,729	1,138,429	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	99,135	113,606	78,729	1,138,429	
		1	1	—	<0.4%>	
(オランダ)	ASML HOLDING NV	405	—	千ユーロ		
				—	—	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	405	—	—	—	
		1	—	—	<—>	
(フランス)	SCHNEIDER ELECTRIC SE	2,222	2,291	千ユーロ		
				50,922	8,792,310	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	2,222	2,291	50,922	8,792,310	
		1	1	—	<3.0%>	
(ドイツ)	SIEMENS AG	3,049	2,314	千ユーロ		
	INFINEON TECHNOLOGIES AG	11,907	9,382	53,477	9,233,419	資本財
	KION GROUP AG	4,730	4,556	34,505	5,957,783	半導体・半導体製造装置
				26,473	4,570,944	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	19,688	16,253	114,457	19,762,147	
		3	3	—	<6.8%>	
(その他)	MAREL HF	47,702	—	千ユーロ		
				—	—	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	47,702	—	—	—	
		1	—	—	<—>	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	70,019	18,545	165,379	28,554,457	
		6	4	—	<9.9%>	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	298,107	273,515	—	237,672,092	
		42	44	—	<82.2%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2025年8月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 281,266,664	% 97.2
コール・ローン等、その他	8,221,723	2.8
投資信託財産総額	289,488,388	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(243,500,222千円)の投資信託財産総額(289,488,388千円)に対する比率は、84.1%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので、なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=147.84円、1香港ドル=18.83円、1台湾ドル=4.926円、1ノルウェークローネ=14.46円、1ユーロ=172.66円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2025年8月13日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	290,744,885,318円
コール・ローン等	6,323,724,657
株式(評価額)	281,266,664,826
未収入金	3,052,855,835
未収配当金	101,640,000
(B) 負債	1,720,022,465
未払金	1,720,022,465
(C) 純資産総額(A-B)	289,024,862,853
元本	87,194,268,706
次期繰越損益金	201,830,594,147
(D) 受益権総口数	87,194,268,706口
1万口当たり基準価額(C/D)	33,147円

- 期首元本額 95,408,530,704円
- 期中追加設定元本額 4,564,775,732円
- 期中一部解約元本額 12,779,037,730円
- 1口当たりの純資産額 3,3147円
- 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額
- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用) 84,076,389,615円
- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用) 3,117,879,091円
- 期末元本合計 87,194,268,706円

■損益の状況

(2024年8月14日～2025年8月13日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	1,810,581,658円
受取配当金	1,653,147,024
受取利息	157,180,508
その他収益金	254,126
(B) 有価証券売買損益	43,758,917,366
売買益	62,942,245,581
売買損	△ 19,183,328,215
(C) その他費用	△ 42,227,028
(D) 当期損益金(A+B+C)	45,527,271,996
(E) 前期繰越損益金	173,609,060,153
(F) 解約差損益金	△ 25,970,962,270
(G) 追加信託差損益金	8,665,224,268
(H) 計(D+E+F+G)	201,830,594,147
次期繰越損益金(H)	201,830,594,147

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。